



ゆ〜かい〜ぶす 16号

兵庫高等学校第2学年

ソチオリンピック

5組担任 M. K.

真央ちゃん、まさかの16位発進。ソチオリンピックのフィギアスケートのショートプログラムで思ってもいなかった結果となった。一夜明けた朝の練習風景もショックを引きずっているようでこわばった表情がテレビから伝わってきた。しかし本番ではジャンプを全て成功させ、見事な演技をやってのけた。夜中の放送だったので見ようか寝ようかと迷ったが、気になって眠れず結局テレビの前で正座して応援してしまった。Liveで見ているとハラハラ、ドキドキが伝わってきて感動！感動！の連続だった。結果は6位。メダルは逃したものの、16位からの6位入賞はすばらしい。どん底にあった気持ちをたった1日で立て直し、強い意志と集中力で本番に臨み力を出し切る、さすがです。心が震えました。

男子の高橋大輔選手の演技も素晴らしかった。やはりメダルには届かなかったが、フリーの演技後半のすずがしい滑りは見ている人を引き付けた。表現のうまさは金メダルに値すると思った。今回のオリンピックで他の種目においても、選手達の生きざまを見ることができ、たくさん感動をもらった。多くの挫折を乗り越え、金メダルに向かっての最大限の努力をし続けている人にもみ与えられる“輝き”がある。選手の皆さんは本当に輝いていました。スポーツの力、努力の大切さを再認識したオリンピックとなった。

出張講義

大学の先生にきていただいて、
本校で大学の授業を体験するという
〈ありがたき〉企画！

2013/12/20

14号に続き第2弾

アベノミクスについて

出張講義

1組 T. N.

〈法学〉に何ができるのか？

講義を学んだ意味とは

7組 M. N.

今回、法律関係の仕事を目指しているという理由からこの講義を選んだ。

始めは(失礼だが)あんまり面白くないなあと思ったが、話が進むにつれて面白くなっていき、結果としては有意義な1時間を過ごせたなと思った。

内容としては法学部で学ぶうちの法学、その中の基礎法という法学とは何か？という哲学的要素を学んだ。

途中難解な説明があったものの、講師の方が大変わかりやすく説明してくださったので、すんなりと理解することができた。

今回の講義によって法学への興味がより深まり、夢へ目指すための活力となった。それと同時に大学の講義はこのように難しいところもあるのだなと感じた。

12月20日に出張講義がありました。僕は経済学や経営学に興味があるので「アベノミクス」の講義を選択しました。

この講義ではアベノミクスだけでなく、円安や円高、その他様々な経済についてのことを教わり聞いていて楽しかったです。僕は、国家財政が傾くことで銀行も大損し悪循環に陥るといふソブリン危機の話が面白かったです。

また、今回の講義では英語を織り交ぜて行われました。これは大学によっては普通にあるようで、僕は英語を勉強しないといけないと改めて痛感しました。

今回の講義で、より大学に入って経済や経営を学びたいと思えて大変よかったです。



民主主義の経済学的意味

講義を聴いて感じたこと

7組 H. K.

松繁先生の大豆を題材にした民主主義の実態のお話はとても興味深く、驚いたことは情報の流し方によって社会全体を操作できると謂うことでした。流れている情報が正しいか、誤っているか、或いは全く関係がないか、それぞれ効果は違うが、全く関係のない情報さえも国民の考えに影響を与えることを教えてくださいました。

私たちが大豆を使った実験に参加することもでき、民主主義にあるメリット・デメリットがよく分かりました。私は国際公共政策科が行う経済学・政治学の勉強がこれほど面白いものだと知りませんでした。民主主義である日本が世界で認められているわけを知ることができ、とても勉強になりました。

SS SS SS クラス読書会 SS SS SS

去る1月30日、各ホームルームで行われた読書会の様子をお届けします。

5組 「卵の緒」

R. S.

クラス読書会にて5組では卵の緒という本について話し合いました。この本は親子の愛情というものが話の中心になっています。

この本を一度読むと親の子に対する本当の愛情というものが十分に伝わってくる内容になっています。そのため読書会では「良い家族関係を築くために最も大事なものは何か？」という論点については多くの方が親子の愛情と答える結果になりました。今回の読書会を終えて多くの方が親のありがたさについて気づかされたのではないかと思います。

1組 「カラフル」 本っていいね

M. Y.

私はクラスの人達の協力で予想以上の読書会ができたなと思いました。兵庫高校の人達はみんな忙しいし本はなかなか読んでももらえないだろうと思っていましたが、読書会までにはほぼ全員が最後まで読んでくれていて、「めっちゃおもしろかった！」と声をかけてくれた人もいました。

いざ読書会になると自分自身が読んでいてよく分からなかった点で、この論点は難しい

かな...?と思ったりしたことそれぞれの班から様々な意見が出て来て、そんな考え方もあるんだなあ、と度々驚かされました。自分一人では一つしか考え方は出てこないけれど討論することによって自分の思ってもなかった考えが出てくるのがおもしろかったです。

様々な人の意見を聞くことで本を何倍も楽しむことができるんだなあ感じました。

7組 「海と毒薬」 海と毒薬を読んで

S. K.

私たち7組がクラス読書会に選んだ遠藤周作さんの『海と毒薬』は、ページ数はそんなに多くないのですが内容がとても重く、文系と理系の混合である7組にぴったりでした。

あらすじは戦争の混沌に紛れて日本軍の命令でアメリカ軍の捕虜を人体実験に使うというものなのですが、この話ひとつとっても日本とアメリカの戦前と戦後の関係が伺えるおもしろい話でした。

クラスの意見としては、怖い話だったというものが大半でしたが中には勝呂と戸田の性格の違いなど深くまで読み込み考察していた人もいました。

普段本を読む人にも読まない人にとってもクラス全体で同じ論点について考え合うことはいい機会になったと思います。



6組 「架染と盛遠・好色」 クラス読書会をして

R. K.

僕は元々本というものを殆ど読まない人間なのですが、委員決めるときに楽そうだなあと思って図書委員になりました。

楽そうだなあと思いきやとてもめんどくさかったです(森岡先生には内密に)。

クラス読書会では芥川龍之介の短編集的なものを読みました。案の定読んでる人は少なかったけれど、思いの外面白い意見が出たので楽しかったです。

いままでは漫画しか読まない人間だったけれど、この読書会を通して本の奥深さとか、面白さを知れたような気がしました。これからは本を読む機会を増やし、色々な観点から読めるようになりたいなあと思いました。

3組 「クリスマスカロル」

Y. K.

えー読書会の感想を書きたいところなんです、僕は図書委員にも関わらず書者会当日の日に熱を出し、欠席してしまいました。本当に申し訳ありませんでした。悔やんでも悔やみきれないです。

そんな中、僕の代わりに読書会をしてくれた T さんや読書会に協力してくれたクラスみんなには感謝したいです。本当にありがとうございました。今回の読者会で、本を読む大切さと体調管理の重要性を再認識することができました。以後、いろいろな人に迷惑をかけないようにします。本当にすみませんでした。

4組 「白い服の男」

E. N.

今回のクラス読書会では星新一の「白い服の男」という短編小説を取り上げました。「老人と孫」「悪への挑戦」の2つの題材についてグループごとに話し合いをしました。SFは非現実的なのでディスカッションするには難しかったです。あるテーマについてグループ単位で話し合い意見を出し合うという時間を持たせたのは、他者の考えを知る良い機会になったと思いました。私は司会進行役をして反省することも多く、良い経験になりました。

2組 「蜘蛛の糸・杜子春」 読書会の感想でございます

T. M.

2組では、あの破天荒でダンディーな小説家「芥川龍之介」の不朽の名作「蜘蛛の糸・杜子春」を「何が善で何が悪なのか」をテーマとして話し合った(≧▽≦)文字数の関係上、粗筋は割愛させて戴くが、メインの蜘蛛の糸では、「もし自分が主人公の立場にあつたらどう行動すべきか」という論点を設定したところ、「順番を決めて蜘蛛の糸を登る(^o^)」「罪人の立場をわきまえて登らない(ε_ε)」など、十人十色の意見が出てきて、ぞくぞくした、(・_・;)ノ

今回の読書会は修学旅行が終わってすぐに行われたが、多くの人が読んでくれて、活発で有意義なものになったと思う (-.-) zzZZ

ワン・ワールド・フェスティバル

2/1~2 (土・日)

大阪国際交流センター

総合科学類型7組の文系の生徒が参加。兵庫高校ブースを出して、研究発表やフェアトレード商品の販売をしました。

気づいて得たもの

N. Y.

1学期に難民の子どもたちの心理に興味を持ち、2学期からそれに関する研究を始めた。そして、ワン・ワールド・フェスティバルでポスターセッションができる機会があった。フェアトレード商品を販売している兵庫高校のブースにやって来る方々は、私の研究内容にも興味を持ってくださった。全員で私の話にも耳を傾けてくださる家族、共感してくださる人がたくさんいた。実際に難民を救う仕事をしたことのある方々が、質疑・アドバイスして下さったりもした。興味を持ち、自分の考えに傾いてくれる人がいて、さらにその考えを伸ばそうとしてくれる人がいるということ。それに身をもって気づき、嬉しい、頑張ろう、と感じることができた1日だった。



思いを伝える大変さ

M. N.

このイベント自体には昨年見に行ったので、雰囲気などは分かっていたが、発表する立場としては今回初めてだった。

どのように発表するのか前例がなかったので、少し緊張していたが、始まって10分も経たないうちに気づくといつの間にか来場された方とお話することができた。説明がどうしても下手なので、相手に理解してただけが非常に不安だったが、無事に伝わってよく調べていますね、頑張ってください！と言われた時は非常に嬉しかった。

今回の発表では学んだことがたくさんあったので、これからの発表にうまく生かせるようにしよう、そう思った。

サイエンスフェア

2/2 (日)

神戸国際展示場

総合科学類型7組の理系の生徒が参加。兵庫県内のSSH校9校と教育委員会が推進している「咲いテク」事業の一環。103のポスターセッション発表が行われた。

サイエンスフェアに参加して

N. F.

総合科学類型でのメインイベントであるサイエンスフェアに参加した。サイエンスフェアでは兵庫県の高校生や大学生、大学院生や企業の方などの理系科目の発表会が行われ、ぼくたち化学班は燃料電池について実験をし、数々の問題点を見つけながら改善をしていくことで正確な内容の発表をしようとした。

しかし、発表すると大学の教授の方々から「実験になってない」「正確でない」など実験自体を否定されたり質問攻めに合い、返答に困るような厳しい質疑応答が続いた。

今回のサイエンスフェアでぼくたちは実験に対する考えが甘かったのだとわかった。しかし、発表に至るまでの試行錯誤の過程がぼくにとってとても大切なことであつたに違いないと思う。

今後進学し、今回のサイエンスフェアのような発表の場があるときには聞く人全員が感嘆するような内容を発表してみせようと思った。



アイルビーバック

G. K.

今回の体験を通じて、一年生の時と違い実際にプレゼンする立場になってみると想像以上に緊張するということが分かった。

大勢の人の前で自分たちの研究した内容を発表するというのはプレッシャーがかかる。間違っていたらどうしよう、とか、質問にうまく答えられるだろうか、と説明しながら頭の中で考えてしまうのだ。

結果、今回はあまりうまく質問に答えることはできなかったが、これから様々な経験を積んで成長していきたいと思う。あの時質問してくれた生徒や教師陣の方々には、いつの日か別の発表の機会に出会ってまた僕に質問を投げかけてほしい。

次こそは完璧に答えてみせよう、

I'll Be Back!

サイエンスフェアを終えて

K. H.

物理班は「ブーメランの飛び方」をテーマに研究を進めていました。上手くいかないことも多々あり、発表準備に追われるなど、慌ただしい中でサイエンスフェアを迎えました。

発表当日はたくさんの方が見に来て下さいました。嬉しかった反面、緊張しました。上手く説明できないところもありましたが、自分ができる時にできる精一杯のことはできたと思います。発表後はいろんな先生方からアドバイスをいただきました。その時、自分達では気づかなかった課題がたくさん見つかりました。次は校内発表です。今回での課題を生かして、より良い発表ができるようにしたいです！

類型の集大成

Y. T.

今年の類型の生物選択は少なく、わずかに二人でした。そして、類型の集大成でもあるサイエンスフェアでの研究発表の内容は共生。異種の生物を使った実験は、説明がとても複雑で悪戦苦闘しました。

発表終わりに回収する、アドバイスシートにはダメだしも書かれていましたが、内心は悔しいなと思いつつも、それをヒントにして、次の発表では改善することができたと思います。

今回の実験を通し、初めて見たり聞いたりする人にいかに分かりやすく、丁寧に説明することが大事か、ということに改めて理解しました。そして、このような機会を与えてくださった先生、神戸大学の方々、本当にありがとうございました。

